

## 1. 学歴

- 1996年 3月 東京大学教養学部卒業  
1996年 4月 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程入学  
2000年 6月 同博士課程中退  
2003年 4月 博士(学術)

## 2. 職歴・研究歴

- 2000年 6月 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻助手  
2004年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師  
2008年 4月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

資源経済学, 経済学入門

#### (b) 大学院

資源経済論 I, 環境・資源経済分析 A, 環境・資源経済分析 B, ワークショップ・リサーチワークショップ(環境・技術)

### B. ゼミナール

学部後期, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義(資源経済学)では、「マテリアル・フローの政治経済学」をテーマとして論じる。物質循環に着目することで、資源や環境に関わる社会的問題の構造を端的に把握することができる。その構造を生み出す社会経済的要因を分析して、問題の解決をめざすアプローチである。具体的には、様々な資源・製品の物質循環の定量的把握や特徴の分析を行う手法、それら物質循環を規定する社会・経済活動とその活動を制御する政策手法について紹介する。

大学院講義(環境・資源経済分析)では、主として大学院学生を対象としつつ、意欲的な学部学生にも門戸を開いた形で、環境・資源経済学の対象領域に関する分析手法を紹介する。環境・資源経済分析 A では主としてフィールドワークに関する手法を対象とし、環境・資源経済分析 B では主としてデータ分析に関する手法を対象とする。

学部講義(経済学入門)では、経済学部 1 年生と他学部の経済学関連講義未修生を主たる対象とし、経済学において用いられる概念や経済学的思考方法などを、具体的事例に則して解説する。これにより、受講者が 200 番台コア科目に進むにあたり、一定の見通しを持って講義選択ができるよう、経済学体系の見取り図を示

す。

学部ゼミでは、「再生」と「循環」をキーワードとし(再生資源や再生可能エネルギーの活用, 資源循環と経済循環の統合など), 資源・環境問題, 農林水産業, 地域の再生と活性化など, 持続可能な社会の構築にかかわるテーマに取り組む。大学院ゼミでは, 資源経済学の対象分野を中心としつつ, 個々人の関心に応じて論文指導を行う。

## 4. 主な研究テーマ

- (1) マテリアル・フロー分析
- (2) 廃棄物・リサイクル政策
- (3) 再生可能エネルギー政策

「マテリアル・フローの政治経済学」アプローチによる廃棄物・リサイクル政策の分析を標榜し, 研究・教育活動を進めている。具体的には, 1) 経済活動を物質的側面(Physical Economy)と貨幣的側面(Monetary Economy)に区分する。2) 物質的側面における資源や廃棄物のフローやストックの定量評価に基づき, 資源・環境問題の実態を把握する。3) 貨幣的側面におけるマネーのフローやストックの評価に基づき, 当該問題が発生するメカニズムを明らかにする。4) 物質的側面を規定する貨幣的側面は, 法制度や権利の配分など市場外の要因によって規定されており, 市場外の要因を検討することで問題解決にむけた政策のあり方を論じる。以上4段階の分析を経ることで, 対象とする資源・環境問題に対する処方箋を提示することを目標としている。物質的側面の分析としては, 物質循環に関する指標の開発("Circulation indices")と, 同指標を用いた国際資源循環の分析(「国際リサイクルとその指標」)がある。物質的側面と貨幣的側面の相互関連の分析としては, 廃棄物政策(特に廃棄物税の効果)に関する分析(「なぜ三重県では産廃最終処分量が激減したのか?」, "A General Equilibrium Analysis of Waste Management Policy in Japan")と, 国際資源循環のメカニズムと費用負担制度に関する分析(「国際リサイクルの制度設計に向けて」)がある。再生可能エネルギーに関しては, 脱化石燃料・脱原発・省エネ推進・再生可能エネルギー推進によるエネルギー転換の取り組みが, 地域の持続可能性にも資するものとなるべく, 政策研究を進めている(『ドイツに学ぶ』以降の一連の成果)。

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- 『アジア環境白書 2003/04』(井上真, 大島堅一, 小島道一と共編), 東洋経済新報社, 2003年。
- 『アジア環境白書 2006/07』(井上真, 大島堅一, 小島道一, 除本理史と共編), 東洋経済新報社, 2006年。
- 『アジア環境白書 2010/11』(大島堅一, 小島道一, 除本理史と共編), 東洋経済新報社, 2010年。
- 『ドイツに学ぶ 地域からのエネルギー転換—再生可能エネルギーと地域の自立』(寺西俊一, 石田信隆と共編), 家の光協会, 2013年。
- 『自立と連携の農村再生論』(寺西俊一, 井上真と共編), 東京大学出版会, 2014年。

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

- 「若い世代にとっての地球環境問題」(菊地一佳, 近藤直人, 藤井朋樹, 宮田幸子, 八十島光子, 吉田孝志との共著)阿部寛治編『概説地球環境問題』, 東京大学出版会, 1998年, 143-165頁。
- 「環境学者の作り方—T字型モデルからの脱却をめざして」『環境と公害』第29巻4号, 2000年, 63-66頁。

\* "Circulation indices: new tools for analyzing the structure of material cascades," (written jointly with Kishino,

H., Hanyu, K., Hayashi, C. and Abe, K.), *Resources, Conservation and Recycling*, Vol. 28, 2000, pp. 85-104.

「紙リサイクルの南北問題」日本環境会議「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2000/01』, 東洋経済新報社, 2000年, 338-341頁。

「越境するリサイクルをデータで追う」『国際環境協力』第2巻, 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻国際環境協力コース, 2002年, 115-125頁。

「増大する廃棄物と発生抑制に向けた新政策」(小島道一との共著)日本環境会議「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2003/04』, 東洋経済新報社, 2003年, 370-373頁。

「リサイクルの国際化」日本環境会議「アジア環境白書」編集委員会編『アジア環境白書 2003/04』, 東洋経済新報社, 2003年, 374-377頁。

「廃棄物政策—発生抑制インセンティブの効果的利用に向けて」(小出秀雄との共著)寺西俊一編『新しい環境経済政策—サステイナブル・エコノミーへの道』, 2003年, 155-192頁。

「なぜ三重県では産廃最終処分量が激減したのか?」(除本理史との共著)『環境と公害』第33巻4号, 2004年, 48-55頁。

「越境するリサイクル」高木保興編『国際協力学』, 東京大学出版会, 2004年, 128-135頁。

\* 「国際リサイクルとその指標」小島道一編『アジアにおける循環資源貿易』, アジア経済研究所, 2005年, 149-162頁。

"A General Equilibrium Analysis of Waste Management Policy in Japan," (written jointly with Okushima, S.), *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol. 46, No. 1, 2005, pp. 111-134.

「国際リサイクルの適正管理に向けて」寺西俊一, 大島堅一, 井上真編『地球環境保全への途—アジアからのメッセージ』, 有斐閣, 2006年, 207-224頁。

「朝鮮民主主義人民共和国—知られざる環境面の実態」(崔順踊との共著)井上真, 大島堅一, 小島道一, 除本理史, 山下英俊編『アジア環境白書 2006/07』, 東洋経済新報社, 2006年, 169-188頁。

「循環型社会における廃棄物発生抑制政策の評価」『環境科学会誌』(環境科学会)第19巻6号, 2006年11月, 587-594頁。

「国際リサイクルの制度設計に向けて」『環境と公害』(岩波書店)第36巻4号, 2007年4月, 2-8頁。

「三重県と四日市市における化学物質排出状況—PRTR データによる検討」(除本理史との共著)東京経済大学学術研究センター ワーキング・ペーパー・シリーズ 2007-E-01『三重県四日市市の公害・環境問題と自治体環境政策に関する調査報告書』(東京経済大学), 2007年5月, 64-71頁。

「三重県の産業廃棄物最終処分量減少要因に関する予備的分析—産業廃棄物税導入後の動向把握のために」(除本理史との共著)東京経済大学学術研究センター ワーキング・ペーパー・シリーズ 2007-E-01『三重県四日市市の公害・環境問題と自治体環境政策に関する調査報告書』(東京経済大学), 2007年5月, 72-93頁。

「一つの系としての生協の地球温暖化問題への取り組み—温暖化ガス収支算定の新たなモデル」財団法人消費生活研究所編『環境事業支援政策研究会報告書』(同研究所), 2007年10月, 2-19頁。

「リサイクルという名の埋立処分への懸念—熊本県苓北町の石炭灰リサイクル問題」『環境と公害』(岩波書店)第38巻1号, 2008年7月, 64-67頁。

「国際資源循環に求められる制度設計のあり方」『季論21』(本の泉社)第2号, 2008年10月, 101-110頁。

「アジアの温室効果ガス排出とエネルギー消費」大島堅一, 小島道一, 除本理史, 山下英俊編『アジア環境白書 2010/11』, 東洋経済新報社, 2010年, 314-317頁。

- 「中国の環境政策の鍵を握る地方環境ガバナンス」(寺西俊一との共著)『環境と公害』(岩波書店)第 40 巻 4 号, 2011 年 4 月, 2-6 頁。
- 「自然資源経済と物質循環—日本におけるバイオマス利用の可能性と現実」寺西俊一・石田信隆編著『自然資源経済論入門<2> 農林水産業の再生を考える』, 中央経済社, 2011 年 12 月, 255-277 頁。
- 「自然資源経済論の理論的基礎に関する試論 : 自然資源の固有性に着目して」『一橋経済学』5 巻 2 号, 2012 年 1 月, 31-40 頁。
- 「環境ガバナンスの経済理論—制度派環境経済学の可能性」『環境と公害』(岩波書店)第 41 巻 4 号, 2012 年 4 月, 2-7 頁。
- 「日本でも地域からのエネルギー転換を」寺西俊一・石田信隆・山下英俊編『ドイツに学ぶ 地域からのエネルギー転換—再生可能エネルギーと地域の自立』, 家の光協会, 2013 年 5 月, 169-191 頁。
- 「エネルギー自立を通じた農村再生の可能性」岡本雅美監修, 寺西俊一・井上真・山下英俊編『自立と連携の農村再生論』, 東京大学出版会, 2014 年 5 月, 89-121 頁。
- 「日本におけるメガソーラー事業の現状と課題」『一橋経済学』7 巻 2 号, 2014 年 1 月, 1-20 頁。
- 「再生可能エネルギーによる地域の自立をめざして——日本でこそ『地域からのエネルギー転換』を」『環境と公害』(岩波書店)第 43 巻 4 号, 2014 年 4 月, 2-7 頁。
- 「地域における再生可能エネルギー利用の実態と課題—全国市区町村アンケートの結果から」(藤井康平との共著)『一橋経済学』8 巻 1 号, 2015 年 1 月, 27-61 頁。
- 「都道府県単位で見た再生可能エネルギー利用の特徴と課題—全国市区町村アンケートの結果から」(石倉研との共著)『一橋経済学』8 巻 1 号, 2015 年 1 月, 63-98 頁。

### (c) 翻訳

- 「韓国の環境を脅かす四大河川事業」金丁勳著『環境と公害』第 40 巻第 2 号, 2010 年 10 月, 47-48 頁。

### (d) その他

- 「未曾有の多重災害からの復興と再生をめざして」(塩崎賢明・淡路剛久・磯野弥生・大久保規子・大島堅一・佐無田光・長谷川公一・原科幸彦・宮本憲一・山下英俊・寺西俊一との座談会)『環境と公害』第 41 巻第 1 号, 2011 年 7 月, 21-30 頁。
- 「JEC35 周年シンポジウム—開催記録」『環境と公害』第 44 巻第 2 号, 2014 年 10 月, 71 頁。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

- "An analysis of the effects of the waste tax on the reduction of the final disposal of industrial wastes in Mie prefecture," 1st congress of the East Asian Association of Environmental and Natural Resource Economics, August 18-19 2010, Hokkaido University.
- 「環境ガバナンスの理論的位置づけ—制度派エコロジー経済学の文脈から」, 上海科研総括ワークショップ, 2011 年 12 月 17 日, 一橋大学。
- 「地域における再生可能エネルギー利用の実態と課題—全国市区町村アンケート調査の結果から」(藤井康平との共著), 環境経済・政策学会 2014 年大会, 2014 年 9 月 13 日, 法政大学。
- " A Study on the Actual Conditions of Renewable Energy Use in the Japanese Municipalities, " (written jointly by Kohei FUJII and Shinichiro OKUSHIMA), 14th International Association for Energy Economics

European Energy Conference, Sustainable Energy Policy and Strategies for Europe, October 28-31 2014,  
LUISS University of Rome, Italy.

### **(b) 国内研究プロジェクト**

「中国の地方環境ガバナンスと日中環境協力に関する政策研究」(代表:寺西俊一), 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 2009 - 2011 年度。

農林中金寄附講義「自然資源経済論」プロジェクト(代表:寺西俊一), 2009 - 2014 年度。

「持続可能な農業・農村の再構築をめざして—自然資源経済の再生」(代表:岡本雅美), (財)日本生命財団平成 22 年度学際的総合研究助成, 2010 - 2012 年度。

「地域主体型再生可能エネルギー事業の支援政策に関する研究」(代表:山下英俊), 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B), 2013 - 2015 年度。

### **(d) 研究集会オーガナイズ**

地方環境ガバナンスと日中環境協力に関する嘉興ワークショップ 2010(2010 年 11 月, 嘉興学院), 企画主催。

上海科研総括ワークショップ(2011 年 12 月, 一橋大学), 企画主催。

再エネ科研ドイツ調査成果報告ワークショップ(2015 年 1 月, 一橋大学), 企画主催。

---

## **6. 学内行政**

### **(b) 学内委員会**

学部教育専門委員会委員 2009 - 2010 年度

学生国際交流専門委員会委員 2010 年度

オープンキャンパス実施専門委員会委員 2010 年度

入学試験実施専門委員会委員 2011 - 2012 年度

入学試験実施専門委員会委員 2014 - 2015 年度

### **(c) 課外活動顧問**

一橋大学津田塾大学吹奏楽団顧問

---

## **7. 学外活動**

### **(a) 他大学講師等**

東京大学教養学部「地球環境論 I」2007 - 2011 年度

### **(b) 所属学会および学術活動**

環境経済・政策学会

環境科学会

日本環境会議(- 2014 年 7 月 常務理事, 2014 年 7 月 - 事務局次長)

### **(c) 公開講座・開放講座**

まちだ市民大学「環境講座」2005 - 2007 年度, 2009 - 2012 年度

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

国立市ごみ問題審議会会長(2009年 - 2012年)

公益財団法人自動車リサイクル促進センター資金管理センター資金管理業務諮問委員会委員(2012年 - )

町田市廃棄物減量等推進審議会委員(2013年 - )

農林水産省今後の農山漁村における再生可能エネルギー導入のあり方に関する検討会委員(2014年 - )